

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【茨城県】

1 実践テーマ	【 II, V 】
2 実施対象者	筑西市立新治小学校 全児童（470名） 教職員30名 保護者10～20名程度
3 展開の形式	(1) 学校における活動 1 教科名（ ） ② 行事名（おもてなし講座，オリンピック選手の話进行こう） 3 その他（ ） (2) 地域における活動 1 イベント名（ ） 2 その他（ ）
4 目標 (ねらい)	オリンピック・パラリンピックの自国開催という機会を生かし、スポーツに対する興味・関心の向上を図るとともにマナーとおもてなしの心について知り、それを身に付けようとする態度を培う。 また、オリンピックに出場しメダルを獲得した選手の体験談を聞くことでスポーツに対する興味・関心を高めるよい機会とする。
5 取組内容	II 江上いずみ筑波大学客員教授（元キャビンアテンダント）を講師に迎え、マナーとおもてなしの心について知ろうというねらいで話を聞く。活動は、発達段階を考慮して、1～3年60分、4～6年90分の2部制で実施する。 <事前指導> ○オリンピックについての理解を深める。（学級活動） ・2020年に自国開催（東京）で開かれること。 ・東京オリンピックにはたくさんの外国人が日本に来ること。 ・茨城県もカシマスタジアムが会場になっていること。 <当日の計画> (1) グローバルマナーとおもてなしの心を学ぶ  ・プレゼンを活用した、世界のマナー、失敗例等の紹介 ・職員と講師のデモンストレーション



- 学習したことを実際に体験
 - 友達と握手をする。相手の目を見て、力を入れて握手。
- (2) 学んだことについて交流をする（学級活動）

<事後指導>

- (1) マナーについて自分の生活において生かされているかどうか考える。

V ロンドンオリンピック柔道男子60kg級銀メダリストの平岡拓晃選手の体験談を聞く。また、柔道競技を身近に見たり、体験したりすることで競技の素晴らしさを知る。

<事前指導>

○オリンピックについての理解を深める。（学級活動）

- 2020年に自国開催（東京）で開かれること。
- 平岡選手の経歴
- ロンドン五輪で、柔道60kgに出場し銀メダルを獲得したこと。

<当日の計画>

- (1) プレゼンや動画により平岡選手の柔道を知る。
- (2) 練習パートナーとの約束稽古を見学する。
- (3) 本校の柔道経験者との約束稽古を行い、全員が見学する。



- プレゼンを含めた自己紹介。
- 筑波大学の学生とのデモンストレーション。



- 本校児童とのデモンストレーション。1年生から6年生まで6名の児童と技をかけたり、かけさせていただいたりした。
- 全児童がロンドンオリンピックの銀メダルを触らせていただいた。

<事後指導>

自分が感じたことを学年の実態に応じ作文等にまとめる。

6 主な成果

- オリンピックやパラリンピックに対する興味・関心が高まったと考えられる。（特に講演会直後は、オリンピックやパラリンピックのことを話題にあげる児童が多く見られた。）
- 声を出してから動作を行う分離礼について学んだが、分離礼を実施する学級が多く、現在では、身に付いている学級が見られる。
- 分離礼までは行かなくても、相手を見てあいさつをすることや話をすることを意識し、実行しようとする児童が増えた。

	<ul style="list-style-type: none"> •握手は世界では一般的なあいさつであるが、日本人に多い力を入れない握手はおかしいことであるということを知り、外国語活動の時間などではきちんとした握手をしようとしている姿が見られた。 •相手に恥をかかせない、相手の立場を尊重したことはや行動が重要であることを知り、それはことばの通じない外国人であってもある程度は可能であることを理解することができた。 •一流の柔道家の技を間近に見ることで、柔道に関する興味・関心が高まった。講演会后、新たに柔道を習いたいと話している児童が見られた。 •柔道にだけでなくオリンピックやパラリンピックに対する興味・関心が高まったと考えられる。 •平岡選手の「失敗はダメじゃない」という話は児童にとっても分かりやすいものあったと同時に、平岡選手の人間性に触れることができた。そのため、平岡選手の退場のときには、児童が自発的に平岡選手の前に並び握手をするという光景が見られた。 •実際に、平岡選手と約束稽古をしていただいた6名とその保護者は大変喜んでおり、柔道競技を続けるよい意欲付けとなったと考えられる。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> •「おもてなし講座」を開催するに当たって、本校は、470名の児童がいることと発達段階に分けて話していただいた方が児童の理解もよく、また、学習効果も上がると考えて、1～3年と4～6年の2部開催にした。 •今回は、全児童一斉に行うため、低学年の集中力が続くかどうか心配なところであったので、デモンストレーションを行うなどして、児童の集中力が持続するようにした。 •本校児童の中で、柔道を習っている児童と平岡選手に約束稽古を行っていただいた。(保護者からは事前に文書による説明を行い、許可を受けた。)これは当日の平岡選手の計らいによるものであるが、本校の全児童にロンドンオリンピックの銀メダルを触らせていただけた。(子供たちは大変な喜びようであった。)
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> •講師の確保をするのが難しい場合もある。どのようなところに講師依頼をすればよいのかが見当が付かなかった。また、講師が決まっても内容や時間など電話やメールでのやり取りとなるので、この会場、この進め方で大丈夫なのかと心配になることも多かった。 •講師の先生にプレゼンを用意していただいたが、本校の場合、スクリーンが小さく後ろの児童からは見にくく残念であった。大型のスクリーンに投影できると学習効果も上がってくることが考えられる。
9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> •講師を呼ぶことができるのであれば、平成29年度の内容に加えて、新たな例をテーマにして、「おもてなし講座」を実施したい。ただ、講師を招聘することが難しいのであれば、今年度の内容を各学年に合わせた学級活動を考え、定着を図っていきたい。 •児童は、今回のように元キャビンアテンダントなど専門的な立場での話について興味関心が高いので、おもてなしに限らずこのような機会は設けることは教育効果が上がると思われる。 •もしも、オリンピック・パラリンピアの招聘が可能であれば、児童にとってもよいものであると考えるので、同様のことを実施したいと考える。